

## 〔4〕日常生活の指導による実践

### (1) 取り組みについて

思春期を迎える中学部生徒に、挨拶、マナー、敬語の使い方、応答の仕方、中学生らしい言動、仲間意識を育てていくことは重要である。個に応じた課題や人との関わりを持つ場面等を、毎日の生活の流れの中に自然に組み入れ、繰り返し指導を重ねることにより、定着を図りたいと取り組んできた。

### (2) 実践事例

#### ① 朝の会、帰りの会

朝の会、帰りの会は、学級作りの基本的な場面である。集団としてのルールを身につけ、友だちとのコミュニケーションを深め、自己認識を図るためにも重要である。毎日継続的に行われる学習なので、生徒は見通しが持ちやすく、回を重ねるごとに生徒だけで進行できるようになってきた。

朝の会は、日直の生徒の個性でスムーズにいく場面やこだわりの見られる場面がある。それに応答する他の生徒の反応も、日直の個性に影響される。日直が時計を読むのが苦手な時は、他の生徒がヒントを出したり、時計の模型を動かしてアドバイスをしたりと活躍する。また、全員が昨日の日記を読み、質問

- 〈朝の会〉
1. 日にちを読む
    - ・今日の天気
    - ・今、何時?
    - ・～まであと何分
  2. 健康観察
  3. 日記の発表
  4. 歌
  5. 日直の出し物
  6. 先生の話



を受けるのだが、「今日は時間がないので質問は一人にして下さい」等、日直の判断にまかせている。生徒同士のやりとりが行き詰まったりいい加減に流れてしまったりする様子が見られる時に、担任が声かけをして軌道修正をする。

また、日直の出し物では「〇〇君に挑戦します」「△△君、審査員をして下さい」と指名して、声を長く伸ばしたり大きな声を出したりする競争や、なぞなぞやふりまね等、ゲーム感覚で友だちとのやりとりを拡げるとともに、人前で自分をアピールし理解してもらおうとする意欲を高めている。

帰りの会では、今日の反省として自分のよかったことと悪かったことを全員が発表する。生活ノートに書く項を設けているので、書いたことを発表する形になる。よかったことは、自分でたくさん見つけて書くが、悪かったことというのは自分ではなかなか気づかず、「ありません」という生徒が多かった。担任や友だちの声かけで意識づけるようにすると、自分で反省点を見つけることができるよう

- 〈帰りの会〉
1. 明日の予定
  2. 今日の反省
    - ・よかったこと
    - ・悪かったこと
  3. 歌
  4. 友だちのがんばり
  5. 先生の話

〃A男の生活ノートより〃

10月27日	朝の会	日記	健康
10月28日	朝の会	日記	健康
10月29日	朝の会	日記	健康
10月30日	朝の会	日記	健康
10月31日	朝の会	日記	健康

になった。本年度は更に、友だちのがんばりを発表するコーナーも作り、友だちの良い点に目を向けるようにさせている。「さすが！よく見ていたね」と担任が声かけをすると喜んで、一層満足し、友だちへの意識が高まるようである。

## ② 性に関する指導

### a 取り組みに対する基本的な考え

思春期をむかえた生徒は異性への接近欲をもったり、誰か親しい人とのスキンシップを求めたりするようになる。他者への関心、特に異性への関心は、知的障害者であってもそうでない者であっても同様に現れることが多い。但し、両者間では、自分の性について納得し、自分の行動をコントロールし、周囲との対応の仕方をスムーズに行う力を獲得するのに必要な時間が異なる。

中学部の生徒は、変声期前の段階から第二性徴発現の完了した段階まで、一人ひとり発達段階に幅があり、発達の個人差も多様である。そして、生徒を取り巻く周囲の偏見や理解不足が発達の過程を阻んでいることが多い。効果的な指導のためには、小学部⇒中学部⇒高等部と系統的に指導していく必要がある。中でも中学部では、教師と生徒との信頼関係を大切にしながら、自分の性を肯定し、コミュニケーションの土台を育てることをねらいとしている。

### b 実践の概要

中学部の性に関する指導は、学級単位に指導する場面と学級を解き発達段階別グループを編成して指導を行う場面の2つに分けることができる。

#### ○各学級単位の実践

中学部1年：基本的な生活習慣の確立を目指した。特に、排泄の失敗が残る生徒もあるので、トイレの使い方や男女の違いを指導している。

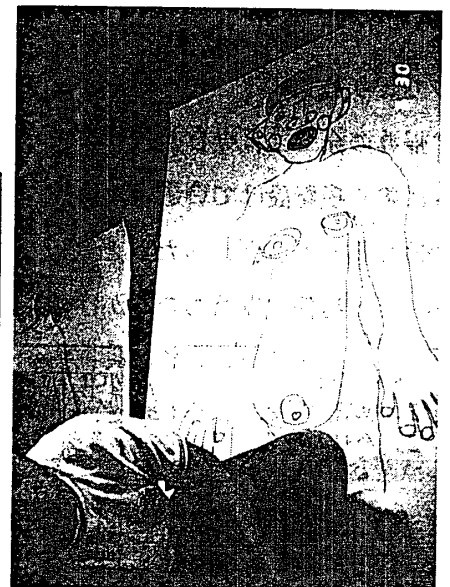
中学部2年：昨年より継続して、体の清潔を意識した指導を行っている。また、からだの変化という側面から、部位の名称やはたらきについての指導も行っている。

中学部3年：男子生徒のM子への意識が、時に問題行動として現れる学年である。そこで男女交際のマナーや男女協力の仕方を指導することが多い。話し合い活動もある程度可能であり、M子の心情を引き出しながら、男子生徒への指導を行っている。同時に、M子自身への指導も必要である。

#### ○発達段階別グループでの実践

中学部の生徒と教官を3グループに分けて指導を行った。

A 城上 市谷 出脇	K男 F男 L男 C男 B男	*体のつくりと名称 *体の清潔 *うれしい気持ちといやな気持ち *して良いことと悪いこと	— — — —	基本的な生活習慣 の確立へ
B 田村 河田	D男 G男 H子 H男 Y子 O男	*体のつくりと名称 *体の成長(子ども→大人へ) *男女の違い		
C 小谷 松下 岨本 小林	S男 E男 M男 R子 N男 M子 A男 I男 U男 Z男	*体のつくりと働き *心と体の成長 (第二性徴の発現) (思春期を迎えた心とからだ) *男女交際	— — — —	性交・結婚へ



自分の体をかいたH男

### c 展開の様子（発達段階別グループでの実践）

ここではBグループとCグループの実践の一場面を記す。

#### Bグループの実践

<p><u>自分の体をかこう</u>……模造紙の上に寝転んだ友だちの身体をなぞり、「頭」「肩」などの部位の名称を言ったり、「足が長いなあ」「髪が長いなあ」など体の特徴を話したりしながら等身大の身体を描いた。大きな鏡を用意し、顔や体の様子を自分で確かめながら、等身大の絵の中に各部位を書き込んでいった。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 「足が太くなったなあ」「頭が小さくなったなあ」などと描きながら、つぶやいていた。</li><li>• 髪の長いY子は、自分のおさげをなでながら「私はG男君の髪形とは違うね」と言っていた。</li></ul>
--	---

#### Cグループの実践

<p><u>心とからだについて、疑問を出そう</u>……自分の経験や考えを話したり、友だちの話を聞いた上で、他人の意見を切り返したりすることのできる生徒が含まれているグループである。とにかく、心とからだについて、知りたいことや先生に尋ねたいことや友だちにも聞きたいことを思いつくまますを記入させるのが、ねらいである。（黒板に掲示するために、B4版の大きさの画用紙にマジックで書かせた）</p> <p>黒板に掲示した画用紙を1枚ずつ読みながら、1つの疑問に対して、すぐには解答を出さずに、なるべく生徒同士の話し合い・やりとりが成立するように配慮した。</p> <p>また、4名の教官は「どんな気持ち?」「どう思うの?」といった生徒の心情を探るような問いかけをするように心掛けた。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 「なぜ、ひげがはえるのですか?」男子生徒数名……これについては次回のビデオ学習の場で、男性ホルモンの働きという指導を行うことにし、この場では触れなかった。</li><li>• 「なぜ女の子の胸だけが大きくなるのですか?」……これについては即答を避け、全員に尋ねることにした。「赤ちゃんにおっぱいを飲ませるため」と答えたR子・U男・I男「男子にも胸の大きい人がいます」と反論したのが、この疑問を書いていたM子であった。M子は肥満傾向にあるZ男の体をイメージしていたようである。</li></ul>
--	---

#### d 実践を終えて

Cグループでは学習を進める中で、教師の体験談を聞いて「実は、ぼくも恥ずかしいけれど、女の人に触りたいと思ったことがあります」と、照れながら語っていたI男。この発言をきっかけに、自分を語ることは恥ずかしいことではないという雰囲気ひろがり、「そういえば、ぼくも・私も」と自らを語るようになっていった。

性に関する指導は、1時間の学習で浸透するものではない。日々の生活あらゆる場面での指導が必要である。教師集団は常に、生徒の心とからだの変化を受容し、しかも心情を大切にしながら、暖かい雰囲気を保ち続けるように努めたい。I男の発言も、そのような取り組みを進めることでうまれてきたように思う。